

大学院（地域医療教育学分野）

29年度は博士課程に2名の大学院生が入学しました。

「地域医療・総合診療・家庭医療、医学教育分野の領域において、研究テーマの設定、研究の計画・実施、結果解析、論文発表のプロセスの実践を通して、自らのフィールドにおいて研究を実施できる能力を修得する」ことを教育目標として、毎週金曜日14:30-17:00リサーチセミナーを開催し、研究計画検討および進捗報告、関連論文の抄読会、研究コアレクチャー等を行いました。メンバーが多職種で構成され、研究テーマも幅広いことが本教室の特徴です。研究を計画、実施し、論文発表を行うプロセスを走り抜けることは1人では難しいことですが、リサーチセミナーの場で、同じ道を進む様々な視点を持つメンバーと意見交換することで、それぞれの研究をブラッシュアップしたり、また、研究を進めていくのに大変貴重な時間となりました。

学位取得者については、畔原 篤さんが修士課程、五十野博基先生、舩本祥一先生が博士課程を修了され、学位を取得されました。また、吉本 尚先生、森 隆浩先生が論文博士を取得され、多くの学位取得者を出すことができました。

今年度、特筆に値することとして、小曾根先生が大学院での研究として取り組まれた血圧の測定方法に関する論文「Ozone S, Shaku F, Sato M, Takayashiki A, Tsutsumi M, Maeno T. Comparison of blood pressure measurements on the bare arm, over a sleeve, and over a rolled-up sleeve in the elderly. *Fam Pract* 2016;33(5):517-522.」が2017年4月に Essential Evidence Plus（世界的に使用されている2次資料・エビデンス集）で取り上げられ、さらに、毎年 *American Family Physician* に掲載される Top 20 Research Studies of 2017 for Primary Care Physicians¹⁾ に選ばれたことです！

診療所や在宅医療の現場では、特に冬場など、何枚も重ね着をされた高齢の方が衣類を着たまま血圧測定をすることは珍しくないと思います。この研究のテーマは、腕に何もつけていない状態と比べて、衣類をつけた状態での血圧の測定値はどれくらい違うのか、というものです。この研究は小曾根先生が大学院時代に取り組まれた研究ですが、この Top 20の記事を拝見し、小曾根先生の大学院時代の中間審査での出来事が思い出されました。この研究の中間審査が行われたのは数年前のことでしたが、審査を担当された他の専門分野の先生から「衣類を着たまま血圧測定をするなどあり得ないことであり、研究の意義がわからない」というコメントをいただきました。理想的なセッティングで血圧測定が行われる専門外来と、プライマリ・ケアの現場との圧倒的な違いを痛感した瞬間でした。通常であれば意気消沈して立ち上がれなくても不思議ではないところかと思いますが、このコメントを受けて、小曾根先生は、最終審査までに「プライマリ・ケアの現場では衣類を着たまま血圧測定をすることは決して珍しくはない」ということを示すための追加研究を実施され、介護老人保健施設を対象とした調査で302施設のうち、厚手のセーターを着用している場合、脱がせて血圧測定する施設は、半数以下（42.1%）に留まることを示されました。追加研究の結果も踏まえて研究成果をまとめ、最終審査に合格され、3本の関連研究を出版されました。大変なご努力だったと思います。

中間審査で研究の意義が不明と批判された研究が、プライマリ・ケア領域で Top 20に選ばれるという対照的な出来事を通して、プライマリ・ケアの現場でのエビデンスは、現場から発信していかなければいけないことを改めて痛感しました。

つくばから発信されたエビデンスが、世界のプライマリ・ケア診療に関わる皆さまに活用してい

ただけるのは、とても誇らしいことだと思います。また一方で、世界で注目されるような研究はほんの一握りであり、ほとんどの研究はこのような脚光を浴びるようなことはないと思いますが、小さな石をひとつ、またひとつ、積んでいくような作業が研究というもので、必ずどこかで誰かの役に立ちます。一步一步着実に、現場からのエビデンスを発信していければと思います。

リサーチセミナーメンバー

<Trainer> 前野哲博、前野貴美、高屋敷明由美、佐藤幹也、栗原 宏、浜野 淳、鈴木広道、春田淳志、伊藤 慎、小曾根早知子、片岡義裕、後藤亮平

<アドバイザー> 森隆浩（亀田メディカルセンター）

<Trainee> 大学院生

博士課程 4年次 齋藤さやか*、明石祐作、五十野博基、舛本祥一*、吉澤新太郎

3年次 鈴木 諭、濱田修平

2年次 梶川奈月、渡邊久実

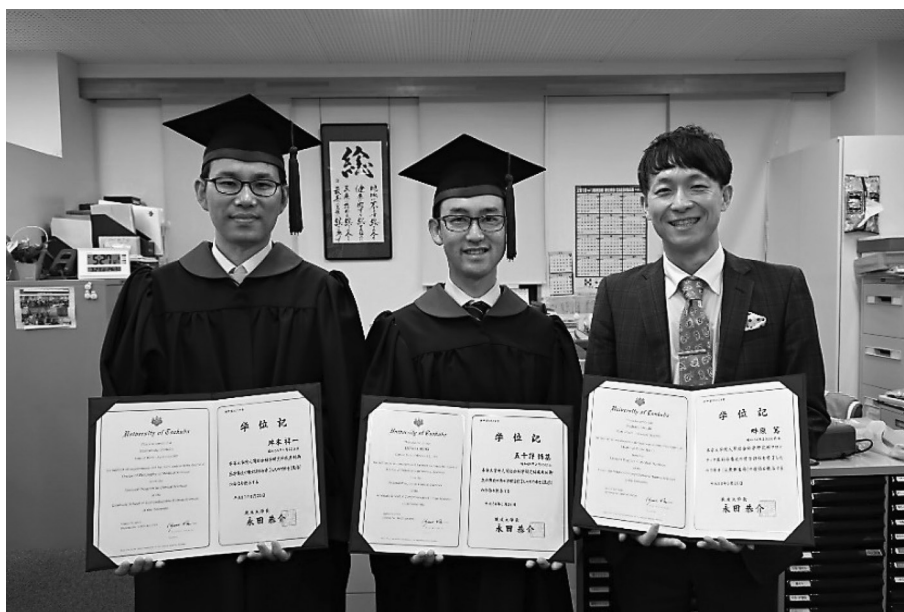
1年次 細井崇弘、斎藤 剛

修士課程 2年次 畔原 篤

*ディスタントコース

<スタッフ> 横谷省治、阪本直人、吉本 尚

学位取得おめでとうございます！



参考

1) Ebell MH, Grad R : Top 20 Research Studies of 2017 for Primary Care Physicians. Am Fam Physician 97(9) : 581-588, 2018

(地域医療教育学分野 前野貴美)